

# 滋賀県立八日市養護学校

## 活動テーマ

### 野菜づくり×CO<sub>2</sub>削減

### ～SDGsについて子どもたちと考える～

令和6年度  
「わたしがやります！  
学校CO<sub>2</sub>ネットゼロ」  
活動報告書

#### 取組の概要について

さつまいもを育てている畑を使って、CO<sub>2</sub>削減にむけた取組を行った。着目したのは、日々給食で出てしまう残飯が肥料にできないかどうかということである。また、そうすることでゴミを減らせられるのではないかと考えた。ゴミを減らすということはゴミを燃やしたり溶かしたりするときに発生するCO<sub>2</sub>が削減でき、本来ゴミとなる残飯が野菜を作るために大切な肥料へと生まれ変わるという‘リサイクル’になる。この視点を児童たちが体験的に学ぶこと、また、収穫したさつまいもを余すことなく利用することで、そもそも‘ごみを出さない’ということが大切であるということも同時に学ぶ機会としたいと考えた。

#### 1. 実践の概要

この取組を行ったのは特別支援学校小学部4～6年生の4クラス22名である。生活単元学習として4クラス合同で畑を使用し学習を進めている。例年、さつまいもやじゃがいも等の栽培と収穫や、調理活動に取り組んでいる。児童たちにとって、その活動は1つずつ分かれた活動であり、関連して理解しているようには思えなかった。今回この取組を通して、自分たちが植えた野菜が大きくなって収穫をし、収穫したものを使って調理活動に取り組むという流れを大切にしながら実践を行った。

応募したきっかけとして、ある一人の児童が残した給食を三角コーナーへ捨てるのを見て、「食べものを残したらもったいないよ」と言った児童がいた。「もったいない？」と聞き返すと、「だってごみになっちゃうじゃん」と言っていた。この児童は、みんなが残した給食がその後どのように処理されるのかということや環境問題につながることまでは理解していないが、‘もったいない’という気づきや‘ゴミを増やさない’という意識はもっているようであった。ただ‘CO<sub>2</sub>削減’や‘SDGs’というテーマは児童にとって馴染みがなく難しいものであると考え、‘ゴミ＝捨てる’ではなく、‘リサイクル’という視点もあるということを体験的に学び、考えられるように取り組んだ。

入れ続け、時々米ぬかも加えながら肥料づくりを行った。児童にはイラストを用いて、‘食べ物の残飯が良い土に変わる’と伝えた。給食の残飯を入れた次の日に覗いてみると、入れたときとそれほど変わっていない野菜や米がそのまま残っていた。しかし、何日か続けていくうちに、残飯が形を変え、さらに、もうしばらくすると残飯は見えなくなっており、かき混ぜても残飯の形は残っていなかった。児童は、不思議そうな様子であったが、徐々に理解しはじめ、「野菜がなくなっている！」と反応を示してくれた。それからは、給食の残飯をコンポストへ入れる活動を自主的にするようになった。コンポストの中で作られた肥料は、さつまいもを収穫したあとの畑に追肥として使用し、次の大根を栽培・収穫するための畑の再生へつなげた。



#### (2) 収穫したものを残さず利用

‘残した食べ物は肥料になる’ということを経験的に学んだ児童たちであるが、そもそも‘ごみを出さない’ことも大切である。そのため、収

#### 2. 実践の内容と工夫

##### (1) 給食の残飯を肥料へ変える

児童が残した給食の残飯を毎日コンポストへ

穫したさつまいもを使って、様々な活動に取り組むことで、‘余すところなく使ってゴミを出さない’ということをテーマにして取り組んだ。

例えば、さつまいもは調理活動でスイートポテトや大学芋、芋もち、さつまいもチップス等を作り、みんなで自分たちが栽培・収穫したさつまいもを味わった。小さなさつまいもや少し虫にかじられているさつまいも等は、芋はんこへと活用した。一般的な普通のハンコよりも持ち手が太いため、肢体不自由のある児童でも握りやすく、魅力的な作品づくりができた。また、さつまいものツルは、時期にちなんでクリスマスリースの制作活動で使用した。

このように、収穫したさつまいもを全部使うことで、‘ゴミを出さない’という視点を体験的に活動することができた。



[収穫したさつまいも]



[スイートポテト]



[芋はんこ]



[クリスマスリース]

### (3) ポスターで対象児童と全校に周知

児童が視覚的にこの取り組みを理解しやすいようにポスターの作成を行った。野菜を「植える」こと、「収穫」をすること、その野菜を使って「調理をして食べる」こと、「制作に使う」ことを、イラストを中心にポスターにまとめ、それぞれの活動のつながりを意識できるようにした。また、コンポストのことにも触れた。このポスターの前で立ち止まってじっくりと見ている児童や「これ食べたい」とスイートポテトを指さす児童、「さつまいもってこんなにいっぱいなんだね」といろいろなことに活用できることを理解した児童の姿が見られた。また、校内に展示していたため、他クラスの児童や全校の先生方にも知ってもらう機会となった。



### 3. 取組の成果と課題

取組の成果としては、児童が‘リサイクル’という視点をもつために体験的な取り組みができたことである。今回は、自分たちが普段残してしまっている給食の残飯が肥料になるということを学んだが、ペットボトルゴミや牛乳パック、雑誌類等のリサイクルにも興味を示してくれることを期待している。また、‘できるだけゴミは出さない’ということも意識しながら過ごしてくれると良い。ただ、今回集めた残飯は自分たちのクラスの分のみコンポストに入れて行った。それは、自分のクラスの残飯の方が身近に感じられると考えたからである。もし、学校全体の給食の残飯を集めてコンポストに入れることができれば、もっと多くの児童生徒にこの取組を知ってもらい、リサイクルについて考えるきっかけとなったのではないかと考える。そのことで、学校全体の啓発へと進めていけると良い。

### 4. 学校における CO<sub>2</sub> ネットゼロ活動の今後の展開

引き続き、給食の残飯をコンポストに入れて肥料に変え野菜づくりを進めていきたい。また、現在育てている大根はもう少ししたら収穫時期になるため、収穫した後に、再度この取り組みの紹介も含めて‘堆肥で育てた大根’として校内での販売等を通して、啓発を行っていきたいと考える。

学校名	滋賀県立八日市養護学校
住所	東近江市上平木町 290
電話番号	0748-23-1774
E-mail	mb60e@pref-shiga.ed.jp